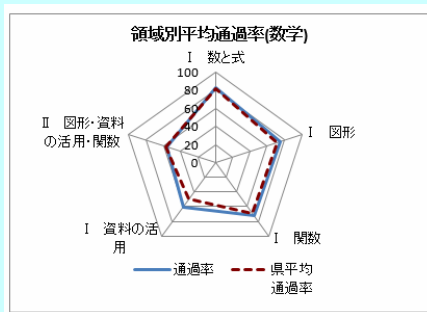
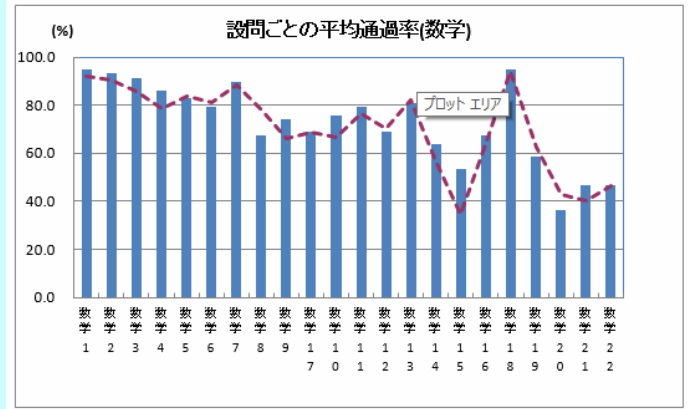


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 72.7%, 県 70.4%) 対県比 103%

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



学力定着実態調査 本年度正答率
 本校 67.5% 対全国比 97%
 全国 69.8%

本年度の結果について

・「基礎・基本」定着状況調査においては、教科全体では通過率72.7%で県平均を上回った。しかし、タイプIIの数学的な表現を用いて説明することや情報を適切に選択する問題に課題がある。
 ・全国学力状況調査においては、B問題は全国平均を上回った。「数と式」「資料の活用」の領域に課題がある。

全国学力・学習状況調査 本年度正答率
A問題
 本校 62.0% 全国 64.4% 県 64.6%
B問題
 本校 42.5% 全国 41.6% 県 42.7%

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 105%

重点課題

- 【課題1】「基礎・基本」定着状況調査
 ①整数の意味を理解していない。(通過率 67.2%, 県平均 78.1)
 ②図形の特徴を、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(通過率 58.6%, 県平均 62.4%)
 【課題2】全国学力・学習状況調査
 ①等式を目的に応じて変形することができない。(通過率 48.9%, 全国平均 64.2%)
 ②簡単な連立二元一次方程式を解くことができない。(通過率 42.2%, 全国平均 56.8%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- 【課題1】「基礎・基本」定着状況調査
 ・数を拡張していく必要性を理解し、具体例を示しながら調べる活動を通して、数の範囲と四則の関係について理解できるよう指導する。
 ・図形の性質や合同条件などの「用いるもの」を可視化し、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定する。
 【課題2】全国学力・学習状況調査
 ・等式を変形させる意義を理解させ、身近な場面と関連づけて学習できるようにする。
 ・加減法や代入法を用いて解き、それぞれの解き方を比較して、共通する考えを理解したり、それぞれの解き方のよさを実感したりすることができる場面を設定する。

「基礎・基本」定着状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1, 2年・中間テスト (タイプII対応問題)		1, 2年・期末テスト (タイプII対応問題)	1, 2年標準学力調査 (活用)	1年・H26「基礎・基本」	1年・学年末テスト (タイプII対応問題)
目標値		60%		65%	70%	タイプII 60%	70%
実施後数値		問題解決の方法や手順を説明する学習		数学的な表現を用いて説明する学習		問題解決の方法や手順を数学的な表現を用いて説明する学習	

全国学力・学習状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年・中間テスト (B問題対応問題)		3年・期末テスト (B問題対応問題)		2年・H26「全国学力」	2年・学年末テスト (B問題対応問題)
目標値		55%		60%		A問題 70%	60%
実施後数値		身近な場面と関連づけて考える学習		多様な解き方を比較する学習		多様な解き方それぞれのよさを実感させる学習	